

JWSF

Japan Wheelchair
Seating Foundation

日本車椅子シーティング® 財団

財団通信 2023 初夏号

2023年6月1日 第12号

一般財団法人日本車椅子シーティング® 財団、〒103-0012 東京都中央区日本橋堀留町 1-10-1 カクタビル 2F
<http://www.wheelchair-seating.org/> e-mail:info@wheelchair-seating.org

INDEX

1 財団主催セミナー

「医療機関のシーティング
セミナーⅠ」報告

2 財団 HP 更新のお知らせ

3 財団主催セミナー予告

「介護保険制度とシーティ
ング 普及と課題（仮）」

4 セミナー参加報告

マトリックス

シーティング研究会

5 編集後記 事務局

高齢者施設での導入が期待される
モジュラー型車椅子



ラックヘルスケア

「レボシリーズ」



日進医療器「ウルトラシリーズ」

1. 「医療機関のシーティングセミナーⅠ」報告

一般財団法人日本車椅子シーティング財団代表 木之瀬 隆

2023年2月25日（土）に財団事務局セミナー室にて表記セミナーを開催いたしました。参加者は、会場参加者10名、Web参加者30名の合計40名余りの参加者で、セミナーへの関心の高さがうかがえました。

セミナーの目的は医療機関のシーティングの取り組みを共有するためとして、シーティングの取り組みを先進的に進めている医療機関のセラピストに発表して頂きました。2017年に厚生労働省保険局医療課から発出された診療報酬の疑義解釈資料より、疾患別リハビリテーション料に「シーティング」が入り算定が可能になりました。医療機関のリハビリテーションでは、重度障害のある人、実用性歩行能力の低い人も在宅へ帰すことが求められておりシーティングの対応が重要になります。講師は当財団代表理事の木之瀬隆、横浜市立脳卒中・神経脊椎センターのシーティングと課題についてPTの児玉真紀氏、リハビリテーション天草病院のシーティング・チームの歴史としてPTの阿部高家氏でした。以下の写真で内容の一部を報告として紹介します。（写真1）（写真2）



写真1はセミナー後半のディスカッション、右から司会の高木憲司氏、阿部高家氏、児玉真紀氏、木之瀬隆氏、になります。

写真2は横浜市立脳卒中センターの車椅子の種類でモジュラー車椅子が170台あるとのことでした。

写真3は横浜市立脳卒中センター患者の入院初期から退院前の立位、座位時間で、歩行能力が高くなるまで安定した座位時間の確保が重要とのことでした。



松永製作所「MYシリーズ」



ヤマハ発動機

「JW アクティブ S タイプ」



フロンティア

「アクトモア レボ」

(写真3)

(全職員対象の車椅子操作研修)

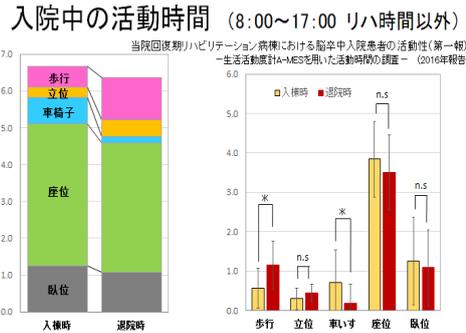


写真4はリハ天草のシーティング・チームの最盛期。写真5はリハ天草の現在として、「最大限の評価・治療効果とシーティングの融合」としてシーティングに取り組んでいるとのことでした。次の医療機関のシーティングセミナーⅡも企画を準備しています。

(写真4)

(写真5)

最盛期	現在
「シーティングって効果あるぞ！私も関わりたい！」	「最大限の評価・治療効果とシーティングの融合を」 ～非麻痺側上肢の使いやすさのために、まず壁面構造に適應できる状況を作る～
<ul style="list-style-type: none"> 自然発生的に初めてのチーム「SIT」を結成 カンファレンス開催 即時効果を強調 卒後研修カリキュラム講師 SITメンバーを車椅子係へ 備品購入時の選定 職員への助言 	

2. 車椅子シーティング財団ホームページを更新しました

JWSF 日本車椅子シーティング財団
Japan Wheelchair Seating Foundation

お問い合わせ・ご相談

ホーム	シーティングとは	入会案内	お問い合わせ
HOME	Wheelchair Seating and Positioning	Supporting member	Inquiry
<p>2023年6月1日 / 最終更新日: 2023年6月1日 Wheelchair_admin お知らせ</p> <h3>第39回日本義肢装具学会学術大会 開催のご案内</h3> <p>会期: 2023年10月28日(土)～29日(日) テーマ: 多職種が関わる義肢・装具 会場: 岡山コンベンションセンター セッション: シンポジウム「医療機関のシーティングを知る—医療機関のシーティング・チーム作りの重要性—」 座長: 木之瀬 隆 日時: 未定 (大会スケジュールが確定次第ご案内します)</p> <p>お問い合わせ: 第39回日本義肢装具学会学術大会 運営事務局 株式会社JTBコミュニケーションデザイン 事業共創部 コンベンション第二事業局内 〒541-0056 大阪市中央区久太郎町2-1-25 JTBビル 8F E-mail: jsपो_39@jtbcom.co.jp URL: https://convention.jtbcom.co.jp/jsपो39/</p>			
<p>シーティング財団</p> <p>シーティングとは</p> <p>賛助会員リスト</p> <p>入会案内 (団体賛助会員)</p> <p>入会案内 (個人賛助会員)</p> <p>お問い合わせ</p> <p>事業内容</p> <p>代表理事ご挨拶</p> <p>定款</p> <p>役員・評議員名簿</p> <p>沿革</p> <p>活動履歴</p>			

【お知らせ】



義肢装具学会ホームページ
 です。ご参照ください。
<https://convention.jtbcom.co.jp/jsपो39/>

第39回日本義肢装具学会学術大会が今年岡山で開催されます。当財団の理事長である木之瀬隆もシンポジウム「医療機関のシーティングを知る—医療機関のシーティング・チーム作りの重要性」での座長を担う予定です。詳細が発表されましたら皆様にご案内させていただきます。乞うご期待ください。

3.財団主催セミナー開催予告

「介護保険制度とシーティング その普及と課題（仮）」

3.財団主催セミナー

QRコード



こちらから申し込みできます
テーマ

「介護保険制度とシーティング
その普及と課題（仮）」

開催概要 10月14日（土）予定

受付：12：30～

セミナー：13：00～16：00

司会：財団理事&評議員

① 基調講演 東島弘子氏

② パネリスト

山下陽子氏

小島 操氏

二村淳子氏

阿部和哉氏

③ シンポジウム

介護保険制度施行後、街中で車椅子に乗って移動する姿を昔よりは見かけるようになり、シーティングに関する団体も増え研修会も行われるようになりました。2021年に介護保険制度にシーティングが明記され、シーティングへの取り組みが行いやすくなった様に見受けられます。しかし、残念ながら在宅や特別養護老人ホーム、介護老人保健施設等において、適切なシーティングが十分に行われている状況にはないのが現実ではないでしょうか。在宅でも、施設でも、適切なシーティングが行われるようになるためには、何がボトルネックになっているのか、どのような対応策があるのか、なにをしたらよいか、それぞれの立場から意見をお聴きし、皆で今後の取り組みを考えていきたいと思えます。

本セミナーでは、基調講演を介護保険制度に精通し、高齢社会の中で福祉用具利用の在り方に関する研究指導を続けている当財団理事の国際医療福祉大学大学院教授東島弘子氏が行います。パネラーとして、元厚生労働省老健局振興課福祉用具・住宅改修指導官 現アルジョ・ジャパン株式会社 山下陽子氏、東京都介護支援専門員研究協議会理事長 主任介護支援専門員 小島 操氏、介護老人保健施設関川愛広苑作業療法士 二村淳子氏、日建リース工業株式会社介護事業本部 福祉用具専門相談員 阿部和哉氏を予定しています。ぜひ、ご参加ください。

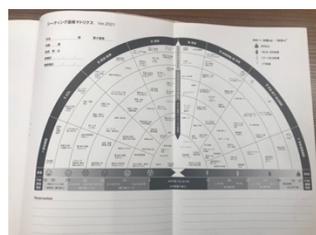


(2022年セミナーの様子)

4.セミナー参加報告

「第2回シーティング連携マトリクス研究会事例発表会」参加報告

当財団の理事・監事も関与しているシーティングの羅針盤「シーティング連携マトリクス (SC マトリクス)」。そのマトリクスを介護現場で実際に活用した事例の発表が行われました。グループホーム、老人保健施設、リハビリ病院などで、多職種での活用が行われている報告が行われました。また、その発表を受けて専門職の立場からのコメントやアドバイスなどが行われました。今後のシーティング普及に関して、実践的な方法論を提案しているという意味でも重要な研究だと実感しました。今後、更なる普及活用が期待されます。



SC マトリクス

注目の車椅子

Hello! (ハロー!) は小さな子供のための小さな車いす。
はじめて車いすに乗りお子様もらくらく滑げる使いやすさと
姿勢と身長をサポートする究極の調整機能と、
小さなフレームにコンパクトに詰め込みました。
Hello! はみんなの車いすデビューを応援します!



株式会社ジェーシーアイ
小児用車椅子「ハロー」

介護保険レンタル



日建リース工業株式会社
レンタルカタログ



株式会社ウイズ
ナーシングラック



(ほぼ満員の会場)

シーティング連携マトリクス研究会について

【趣旨】 「シーティング」とは、自分で坐りなおすことができない方に対し、目的に合った適切な「坐り」を提供することです。

疾病や加齢などで「坐り」に支障をきたすことで心身へさまざまな悪影響を及ぼし、二次障害を引き起こすことはよく知られています。

シーティング連携マトリクス（略称；SC マトリクス）は、その影響の範囲を確認し、時系列的に把握することができます。これを使うことで、シーティングのタイミングをはかり、またシーティングの結果の評価を行うことができ、効率的な介護および介護予防ができます。

また SC マトリクスはシーティング対象者に関わるそれぞれの立場と役割を明確にし、多職種連携をスムーズに図るための道具でもあります。

マトリクス（図）を実際に使ってもらい、みなさまのご意見を吸収しながらより有効性の高いものに改善していきたいと考えています。

【目的】 この研究会（マト研）は、主に以下を目的にしています。

1. さらに使いやすく有効なマトリクスの作成をめざす。
2. 看取り期まで坐って過ごせるシーティングの普及（研修会・事例報告会などの開催）。
3. 総合的にケアの質を高める。

【編集後記】

5月20日に開催されたマトリクス研究会に参加してきました。コロナがやっと5類になったことを実感する集まりでした。2020年から続く新型コロナウイルスによる感染症対策で、オンラインでの研修が当たり前になっていました。今回の研修会は大勢の参加者が集まって、みんなで一つのテーマにワイワイガヤガヤ議論を交わしました。なんだかとても楽しく、幸せな気持ちになりました。しかし、まだ新型コロナウイルスの脅威は残されています。私が入り出る施設でも警戒体制は継続しています。基礎疾患がある方や、高齢者にはまだまだ危険なウイルスです。手洗いや消毒など警戒しながら、社会活動の再開も徐々に進めていきたいです。（川畑善智）